

# 下呂市の救急が危ない 広報げろ 2007.5

## 下呂市の救急が危ない

脳卒中や心筋梗塞ばかりでなく大怪我など命にかかわる患者は一刻も早い救急処置が必要で、そのためにはいかに近くに救急病院があるか、また、その病院が機能を果たしているかが重要です。岐阜県は県内を5医療圏に分けて救急救命センターなどの整備を行っていますが、表のとおり圧倒的な地域格差が生まれています。救急医療は患者がいかに早く病院に到達できるかが重要で、効率を理由に人口密度で考えるのは当地域の生命を軽視していると言わざるを得ません。100平方キロメートルあたりの救急病院数は当地域は岐阜市との間に30倍もの開きがあります。これは救急病院まで到達するまでの時間に圧倒的な差があるということです。下呂市では県立病院と市立病院で救急を担当していますが、患者の病院までの到達時間を考えるとき最低この二つの病院は死守しなければなりません。ところがいま下呂市の救急が危うくなっています。病院には救急専任の医師は配置されていません。昼間各々専門の診療を行っていた医師がそのまま救急を含めて全科を診る当直体制に入り翌日休みもなく手術などの日常診療を行っているのです。特に医師不足の中で専門的治療を必要とする救急医療の維持が困難になっています。住民の皆さんは日ごろ健康に注意し時間内の早めの受診を心がけ不要な夜間、時間外受診を控え、医師の負担の軽減と生命を左右する救急医療の維持にご協力ください。またこの地域格差は国の政策に起因するところが大きいので下呂市だけでは解決できません。住民は同じ税金、同じ保険料を払い義務を果たしているのですから皆さんが、医療制度の根幹を握っている国に働きかけていくという意識が必要でしょう。

下呂市立金山病院 院長 古田智彦

岐阜県の医療環境の地域格差

	人口10万人あたりの医師数	100平方キロメートルあたりの医師数	救急病院数	100平方キロメートルあたりの救急病院数
飛騨医療圏	165.8人	6.6人	5	0.12
中濃医療圏	118.5人	18.9人	15	0.61
東濃医療圏	132.2人	30.9人	12	0.86
西濃医療圏	141.7人	38.9人	15	1.01
岐阜医療圏	211.9人	171.9人	35	3.53
全国平均	201.0人			

岐阜県保健医療計画より